

1 和寒町図書館（H 5 竣工）

職員体制：正職員 1 名、臨時職員 2 名、アルバイト 1 名で運営。今後、臨時職員 1 名を正職員とする予定。

ボランティア体制：6 名（読み聞かせ・ブックスタート手伝い）

延べ床面積：1,337.0 m²

使用図書館システム：美唄未来開発センター

資料購入先：TRC（図書館流通センター）

※月末には整理日（休館日）を設けている。

2 比布町図書館（H 1 5 竣工）

職員体制：正職員 1 名、嘱託職員 3 名（カウンター業務）

ボランティア体制：10 数名（月 1 回読み聞かせ）

延べ床面積：940.0 m²

- ・夜 8 時まで開館しているが、夜間の利用は少ない状況である。（冬は 7 時まで）
- ・館内は約 6 メートルの高さがあり、空間を広くとることで開放感があるものの照明が高く暗い他、暖房費用が嵩むなども問題もある。
- ・閉架書庫と事務所が離れており、資料の探索・貸出などに不便である。
- ・設計者のこだわりとしてルーバー（羽板をすのこ状に組んだもの）を多用しており、外観は独特で洗練されているがコスト高である。
- ・視聴覚室も天井は高く設計されており、会議等にも利用されている。
- ・図書館内に死角を作ってしまうと、問題のある利用がされるため配慮が必要である。

3 新十津川町図書館（H 6 竣工）

職員体制：正職員 1 名（館長）、臨時職員 6 名（内司書 3 名）

ボランティア体制：グループ「おはなしころりん」4 名（読み聞かせ）

その他、図書修理を行うボランティア 2 名（元図書館職員）

延べ床面積 1,372.1 m²

蔵書：9万5千冊

年間資料費：620万円

人口：7,600人

- ・扇形の配架スペースをブロックに分けて図書を配置している。一般図書と児童図書のスペースはAVコーナーで仕切っている。
- ・閉架書庫としては事務所内に可動書架（スタックランナー）を設置している。壁で囲っていたが不便なため取り外し、書架が事務所に並んでいる状態である。
- ・可動書架は電動・手動の2種類があり、導入コスト面では大差ないがメンテナンスや故障した場合を考慮すると手動の方が良いと思われる。
- ・隣接する滝川市の図書館が開設準備中であることもあり、町民より滝川市民の利用が多い状況である。
- ・町中心部から遠いことが問題であるが、近くに小学校があることから子どもの利用が多い。近隣に中学校・高等学校もあるが中学生以上の利用は少ない状況である。
- ・玄関ポーチは階段を座席としてステージ代わりとし、事業を行っている。
- ・スロープ、ポーチ部分は屋根が無いため除雪の手間が発生した。
- ・ポーチ部分は電熱が入っているが、コストの問題もあり使用していない。
- ・外壁部分はタイル張りであり、劣化が進んだため現在張り替え工事中である。
- ・蔵書点検時は図書館職員のほか、教育委員会からの応援も含めて対応している。
- ・児童館、遊具施設を備えた公園が隣接しており、視察時も子どもが多く利用している姿が見られた。

4 京極町生涯学習センター「湧学館」（H16竣工）

職員体制：正職員2名（司書）、嘱託職員1名

※常時3人体制 土日勤務などのためアルバイト1名

ボランティア体制：ボランティア団体はあるが大きく育ってはいない状況である。

蔵書冊数：6万1千冊（内開架5万冊）

延べ床面積 2,901.2 m² 1階 1,960.49 m² 2階 930.41 m² 図書館部分 686.2 m²

- ・過疎債の縛りがあり「生涯学習センター」という名称となっているが内容は図書館

である。

- ・ オール電化施設である。
- ・ 1 階部分は、図書館・陶芸教室・教育委員会事務所・展示ホールが配置されており、陶芸教室では電気窯を使用し作品の作成・展示を行っている。
- ・ 2 階部分は、主に郷土資料館と視聴覚室（100 席のミニシアター）が配置されている。
- ・ プロポーザル方式 設計：創建社
- ・ 図書館と郷土資料館の併設で特に問題点はなく、双方の繋がりができるよう配慮している。

①図書館

- ・ 閉架書庫は旧図書館の書棚を利用しているが収納冊数が少ないため、集密書庫（可動式書架を使用）に変更する予定である。新館を建設する際は最初から集密書庫とした方が良いと思われる。また閉架書庫を2階や地下に設置すると収納の機能しかなく利用しにくいいため、ワンフロアに納めた方が有効に利用できる。集密書庫導入コストは約350万円であり、電動式は壊れやすく手動に比べ若干高価という欠点がある。
- ・ 図書館部分は比布町と同じく天井まで6メートルの高さがある吹き抜け構造である。吹き抜けは作業空間の狭さに繋がるため、開放感か機能性かどちらを優先するかを考える必要がある。
- ・ 図書館運営のプランとして、最初の5年はまず図書の充実を図り、次に新しい図書館プラン作成・ボランティアの育成、出前図書館などの学校支援、子育て支援の充実を考えている。
- ・ 複合施設のため、ホールにも図書を展示できるので図書館に誘導しやすい配置を行うことが出来る。
- ・ 児童関係図書、子育て関係など利用の多い資料を入口側に配置している。
- ・ ビジネス支援について、郷土資料の充実がなければビジネスのアイデアは出てこない。資料の充実による地元文化の理解がビジネス支援になり、そこにニーズが生まれる。そのため地元の特化した資料として「水」関連の図書1,500冊を収集し展示している。

②郷土資料館

- ・ 町民が何度も利用する施設ではないが、町外に出た方の利用が多く、過去を思い出すお手伝いができる場として有効である。
- ・ 図書館施設であるため、無料の原則に則り入館料は徴収していない。少ない金額でも入館料を取ると利用が大きく減少することになる。
- ・ 郷土資料はすべてを展示しているわけではなく、施設内に観覧可能な保存場所を確保している。
- ・ 物の展示だけではなく、写真や復刻展示（別添：広報きょうごく拡大復刻版等）なども行いHPで発信している。
- ・ 歴史のあるものは一箇所に集約しデジタル化をすすめている。
- ・ 地元小学生が社会科で来館する事例もあり、郷土の歴史を次世代に伝える役割を果たしている。

③その他

- ・ 陶芸教室は愛好会 15 ～ 16 人が使用している。土は購入している。
- ・ 1 F ギャラリー部分はレールで仕切ることができ、定期的に展示物を交代している。
- ・ 2 F 視聴覚室では定期的に映画の上映会を行っている（上映権付DVDを貸借）

1 和寒町立図書館





2 比布町図書館







3 新十津川図書館









4 京極町「湧学館」

























